

リニューアル委員会おもてなし部会

提言書

山梨のおもてなしの向上を目指して
～「富士の国やまなし国民文化祭」への提言～

平成 24 年 7 月

山梨経済同友会

代表幹事 小野堅太郎

代表幹事 入倉 要

《目 次》

はじめに	．．．．．	2
1. 体系	．．．．．	3
2. 基盤整備・交通	．．．．．	4
3. 産業振興	．．．．．	7
4. 福祉・健康	．．．．．	11
5. 教育・文化（県民全般を対象として）	．．．．．	13
6. 教育・文化（特に子供たちを対象として）	．．．．．	16
7. ふれあい・発信	．．．．．	20
おわりに	．．．．．	23

【優先的に取り組むべき重点プロジェクト】

- 「心と体の癒しプロジェクト」（P 11、P 12）
- 「一日一拾運動」（P 13）
- 「小学5年生参画プロジェクト」（P 16、P 17、P 19）
- 「ふれあい好感度ナンバーワンプロジェクト」
(P 20、P 21、P 22)

<提言をさせていただくうえでの前提>

本提言は、山梨経済同友会の会員が「やまなし国民文化祭」の成功を願い、ありのままの考えをまとめたものです。このため、既に実施が予定されている事項・イベントなどとの調整を行っておらず、これらの内容が含まれている可能性があります。

はじめに

山梨経済同友会は、委員会・部会での活動を通じて、地域の活性化に資する様々な活動に取り組んでまいりました。

こうしたなか、委員会のひとつである「山梨リニューアル委員会」では、平成23年に、「おもてなし部会」を立ち上げました。「山梨県民のおもてなしの意識の向上」を通じて、交流人口の増加を図ることを目指しています。

おもてなしの意識の向上を図るためには、県民自身が地域を知り、地域の価値を高め、対外的に誇れる街づくりを行っていくことが必要です。山梨県も、昨年12月に「おもてなしのやまなし観光振興条例」を策定し、行政・県民が一体となった取り組みを実施しています。こうしたなか、来年山梨県では、「富士の国やまなし国民文化祭」が開催されます。

全国持ち回りで実施されている「国民文化祭」は、国民の文化活動への参加の機運を高め、新しい芸術の創造を促すことを狙いとした日本最大級の文化イベント（注）であり、「富士の国やまなし国民文化祭」にも、日本全国から多くの観光客が来県すると予想されます。こうした方々に、山梨の良さを十分感じていただくためには、県民のおもてなしの意識の向上を図ることが必要であり、「富士の国やまなし国民文化祭」は向上した「おもてなしの心」を伝える絶好の機会であるともいえます。

経済同友会「おもてなし部会」では、「おもてなしの意識の向上」を県民運動まで盛り上げていくことを通じて、「富士の国やまなし国民文化祭」の成功に寄与することを目指し、「おもてなしの意識の向上」に関わる事業の実施等を今回の提言としてまとめることといたしました。

本提言が、「山梨県民のおもてなしの向上」、「『富士の国やまなし国民文化祭』の成功」に資することができれば、幸いです。

（注）第28回国民文化祭山梨県実行委員会資料から

山梨リニューアル委員会
委員長 小池雅彦

<お断り>

今回の提言における「おもてなし」の定義は、「おもてなしのやまなし観光振興条例」での定義（注）としています。

（注）「おもてなし」とは、旅行者の立場に立って、「温かな心配りによる接待」、「良好な景観の形成、施設の整備等による安全性、利便性、快適性の確保」、「地域の特産物の活用、歴史、文化的資産等の保存及び活用」により、旅行者をもてなすこと。（「おもてなしのやまなし観光振興条例」）

1. 体系

今回、「おもてなしの意識の向上」に関わる事業を提言するにあたり、想定されるあらゆる角度から検討を行うため、次の5つの分野及び3つの時間軸を想定した。

<5つの分野>

- ◇基盤整備・交通
- ◇産業振興
- ◇福祉・健康
- ◇教育・文化
- ◇ふれあい・発信

<3つの時間軸>

- ◇「やまなし国民文化祭」の準備期間
- ◇「やまなし国民文化祭」の実施期間
- ◇「やまなし国民文化祭」の終了後

なお、「教育・文化」分野については、児童・生徒など、未来を背負って立つ若年者たちに関わる提言を、特に抜き出して別枠で策定した。

2. 基盤整備・交通

観光客に対する「おもてなし」の水準を上げる施策のひとつとして、「施設の整備等による安全性、利便性、快適性の確保」が挙げられる。

「やまなし国民文化祭」では、道路等のインフラ整備を進めるとともに、交通手段の充実が望まれる。

(1) 「やまなし国民文化祭」の準備期間中に取り組む事項

①安心して歩ける道づくり（車道と歩道の分離）

【目的】

歩行者・自転車利用者が安心・快適に通行できる環境の整備

【内容】

「やまなし国民文化祭」では、山梨県を数多くの観光客が訪れることが予想されるが、観光客に山梨県の良さを知ってもらうためには、自動車で移動するのではなく、なるべく徒歩や自転車で地域の空気を感じながら移動してもらうことが必要である。

ただし、県内の道路は道幅が狭い箇所も多く、また、自転車専用道路もほとんどなく、安全・快適に通行できる環境にあるとは言い難い状況にある。

については、イベント会場周辺エリアの歩道・自転車専用道路の設置を進めるとともに、狭隘な道路では自動車の通行規制や駐車場の確保を行うなど、歩行者・自転車利用者優先の仕組みを検討・実践していくことが望まれる。

なお、自転車専用道路については、観光エリアを中心に、回遊できるルートとしての整備が望まれる。

②トレッキング道の整備

【目的】

山梨の豊かな自然の観光客への周知

【内容】

山梨県は、富士山、北岳を始め日本を代表する数々の山を抱える日本有数の山岳県である。また、貴重な自然資源を有する清里高原や乙女高原、楡形山などを有する県である。

しかし、これらの山岳や高原を訪れるにあたり利用する山道・遊歩道は、整備が行き届いているとは言い難い状況である。

については、山梨百名山を始めとする山岳や高原を巡るトレッキング道の整備を進めていくことが望まれる。

(2)「やまなし国民文化祭」の実施期間中に取り組む事項

①「徒歩で山梨を知る」イベントの開催

【目的】

観光客および山梨県民への山梨の良さの周知

【内容】

山梨を訪れる観光客と山梨県民を対象に、「徒歩で山梨を知る」イベントを開催する。具体的には、「やまなし国民文化祭」の会場にチェックポイントを設定し、各ポイントにおいて「やまなし国民文化祭」を象徴する写真を撮ってもらう。全てのポイントを踏破した人には、賞品を提供する。また、撮影した写真はコンテストを実施し、優秀者には賞品を提供する。

実施に当たっては、専用マップを作成する。まち歩きを通じて、観光客には山梨の魅力を見つけてもらい、県民には山梨の魅力を再発見していただく。まち歩きを通じて発見した魅力あるスポットを募集し、地域の活性化に役立てていくことも可能かと思われる。

②レンタサイクル・コミュニティサイクルの整備

【目的】

「やまなし国民文化祭」に参加する県民・観光客の移動手段の確保

【内容】

「やまなし国民文化祭」開催期間中は、県民・観光客がさまざまな交通手段で会場を訪れることが予想されるが、山梨県は公共交通の整備が十分ではなく、マイカーでの移動が中心になるとと思われる。しかし、各会場とも十分な駐車スペースを確保することは難しいと想定され、渋滞の発生は「やまなし国民文化祭」への関心を低下させることになる。

については、会場周辺の渋滞緩和、エコロジー推進の観点から、また、公共交通を利用して来訪する観光客の移動手段を確保するため、レンタサイクル・コミュニティサイクルの充実を図ることが望まれる。なお、併せて、サイクリングロードを利用した観光マップを作成し、利用者の利便を図ることが期待される。

③シャトルバスの運行

【目的】

「やまなし国民文化祭」に関わる県民・観光客の移動手段の確保

【内容】

「やまなし国民文化祭」開催会場周辺の渋滞緩和、エコロジー推進の観点から、また、公共交通を利用して来訪する観光客の移動手段を確保するため、シャトルバスの運行が望まれる。

具体的には、遊休地などを中心にマイカーの駐車場を確保し、駐車場と会場を結ぶシャトルバスを運行する。また、鉄道や高速バスを利用して来県する観光客に利便を提供するため、J R・富士急行線の主要駅（特急列車の停車駅）や高速バスターミナルと、近隣会場を結ぶシャトルバスを運行する。加えて、主要な会場間を結ぶルートも運行し、数多くの会場を回遊できるようにする。

④定期観光バスコースの新設

【目的】

観光消費額の増加

【内容】

県内を訪れる観光客に魅力ある地域を数多く訪問していただくためには、定期観光バスの利用も一案である。しかし、現在、定期観光バスは、J R甲府駅、富士急行線河口湖駅・富士山駅などごく限られた駅からしか利用できない。このほかの駅から運行されるケースもあるが、季節限定での運行となっている。

については、山梨県の魅力を県外に伝えていただくため、また、観光客の消費額を引き上げるため、「やまなし国民文化祭」開催期間中に、J R・富士急行線の主要駅（特急列車の停車駅）や高速バスターミナルと、県内主要観光地を結ぶ観光バス路線の開設が望まれる。具体的には、複数の観光スポットを組み込んだ定期観光半日コース・1日コースを設定するとともに、途中下車を可能とし気軽な利用を想定した観光箇所を周遊するループバス路線を設置する。

なお、現在、国中地域と富士北麓の間は路線バスが定期運行されているが、両地域の観光スポットを巡る定期観光バスのコースも開設する。

3. 産業振興

観光客に対する「おもてなし」の水準を上げる施策のひとつとして、「地域の特産物の活用、歴史、文化的資産等の保存及び活用」が挙げられる。

「やまなし国民文化祭」では、こうした観点を念頭に置きつつ、産業振興にも繋がる取り組みが望まれる。

ただし、基本的には、観光客や県民に山梨の産業を正しく知っていただくことが重要であり、短期的な目線で過度に商売に資する取り組みとすることは想定していない。

(1) 「やまなし国民文化祭」の準備期間中に取り組む事項

①宝飾産業のポスター設置運動の実施（宝飾産業振興プロジェクト）

【目的】

観光客・県民に対する宝飾品製造日本一の県であることの周知

【内容】

山梨県は、宝飾品製造日本一の県である。ただし、県都甲府市に地元資本の小売店はなく、また、全国規模で小売展開を行っている企業はほとんどない。大半の企業は下請け的な製造業者や卸売業者的な立場にあることから、全国に誇れる生産額を有していることは必ずしも知られていないのが現状である。こうしたなかで、多くの観光客が訪れ、多くの県民が参加する「やまなし国民文化祭」は、宝飾品製造日本一の県であることを周知する絶好の機会となり得る。

ついては、準備期間中に、山梨県が業界団体と連携し、宝飾品製造日本一の県であることを知ってもらうためのポスター等を作成・設置する運動の実施が望まれる。

ポスターの図案については、一例として、JR甲府駅北口広場に設置してある「クリスタルアース」などを活用し、「山梨を訪れてみたい」と感じさせる内容とする。

また、ポスターの設置場所については、県内外を問わず集客が期待できる場所とし、「やまなし国民文化祭」実施期間中に開催する関連イベントである「山梨のジュエリーを知ろう！」イベントのPR媒体としての活用も想定する。

②「食こそ文化だ！～地域グルメで地域再生～」プロジェクトの展開

【目的】

山梨の郷土料理を通じた地域活性化と「やまなし国民文化祭」のPR

【内容】

平成24年11月24日～25日に甲府駅周辺で、「関東・東海B-1グランプリ in 甲府」が開催される。このイベントには、県内だけではなく県外からも数多くの観光客が集うと想定される。「やまなし国民文化祭」を成功させるためには、あらゆる機会を通じた情報宣伝が必要であり、「関東・東海B-1グランプリ in 甲府」の会場での情

報宣伝は大きな効果が見込まれる。

なお、「関東・東海B-1グランプリ in 甲府」の会場では、出場する「B-1グルメ」以外の山梨の郷土食を紹介するコーナーを設置し、紹介冊子の発行・配布などを通じて、山梨の食の魅力の浸透を図ることが望まれる。

③産業振興につなげる組織の構築

【目的】

イベント効果の産業振興への展開

【内容】

山梨では季節ごとに、マラソン大会や自転車レースなどのスポーツイベントが開催されている。ただし、県内だけでなく県外からの参加者も多いものの、消費にはあまり結びついていない感がある。また、「信玄公祭り」など県内各地域で開催されるイベントも、大きな集客効果を持っているが、その経済効果となると、周囲へ十分な効果を提供しているとは言い難いケースもある。

「やまなし国民文化祭」は文化イベントであるが、前述のイベントと同様に多数の集客が期待できる。このため、宿泊や食事、交通機関の利用など産業振興に繋がる効果も十分期待できるところであるが、そのためには周到な準備が必要である。産業振興に繋げる施策を検討・実施できる役割を担う組織を構築することが望まれる。

(2)「やまなし国民文化祭」の実施期間中に取り組む事項

①「山梨のジュエリーを知ろう！」イベントの実施（宝飾産業振興プロジェクト）

【目的】

宝飾品製造日本一の県であることの周知

【内容】

「やまなし国民文化祭」の準備期間中に取り組む「宝飾産業のポスター設置運動」に続く宝飾産業振興プロジェクトとして、「山梨のジュエリーを知ろう！」（仮題）の実施が望まれる。

具体的には、観光客や山梨県民に宝飾品メーカーを訪問していただき、最新の宝飾業界の動向についてメーカーの担当者から話を聞く機会を設定する。業界を良く知る県民にとっても、「始めて知った話」「目からウロコの話」も多いと想定され、また、観光客にとっても関心が高まってきている「産業観光」であることから、潜在ニーズは大きいと想定される。

なお、クイズ形式やスタンプラリーによる賞品提供などを併せて行うことにより、多くの参加が見込まれると想定される。

②「吉田のうどんグランプリ」イベントの実施

【目的】

「吉田のうどん」の周知、観光消費額の増加

【内容】

山梨県の「B級グルメ」の一翼を担っているとも言える「吉田のうどん」であるが、まだまだ県内でも十分な認知度があるとは言えず、県外に至っては限られた層での認知に止まっているとみられる。

「吉田のうどん」は、その誕生を始めストーリー性豊かな商品であり、差別化商品として全国でも十分関心を引くことが出来る商品である。また、同じ「吉田のうどん」というネーミングであっても、たとえば汁は提供店により大きな違いがあるなど、豊富な話題が提供できる商品である。

については、「やまなし国民文化祭」に参加する観光客や県民に「吉田のうどん」の良さを知ってもらうため、「吉田のうどんグランプリ」を開催することが望まれる。

具体的には、富士北麓地域を中心に山梨県全域に展開している「吉田のうどん」提供店を対象に、観光客や県民が味、接客態度などを評価し、「吉田のうどん」チャンピオンを認定する。

③既存のイベントとのコラボレーションの実施

【目的】

各種イベントへの集客拡大

【内容】

本県では、毎年、「信玄公祭り」を始め、様々なイベントが開催され、県内外から多くの観光客を集めている。こうしたなかで、これらのイベントと、「やまなし国民文化祭」とのタイアップを行い、一層の集客を目指すことが望まれる。

具体的には、たとえば「信玄公祭り」の期間中に、「やまなし国民文化祭」関連イベントとして、信玄公祭りにまつわる書道展などを開催する。

④「やまなし国民文化祭」会場での観光PRの実施

【目的】

観光資源の周知、観光消費額の増加

【内容】

「やまなし国民文化祭」には、県内外から多数の集客が期待できる。このため、各会場において、県内各地の観光リーフレット等を配備したPRコーナーの設置が望まれる。

可能であれば、係員を配置し、観光資源に関する説明を行うとともに、観光施設への誘導等を図る。

なお、PRコーナーは、シャトルバスの発着所やレンタサイクル・シティサイクルの貸出窓口とし、会場の総合窓口的な機能を持たすことにより、来場者に一層の利便性の提供が期待できる。

(3)「やまなし国民文化祭」の開催後に取り組む事項

①食をテーマとした定期イベントの実施

【目的】

観光客のリピーター化の推進

【内容】

『やまなし国民文化祭』の実施期間中に取り組む事項として、『吉田のうどんグランプリ』イベントの実施を提案している。本イベントは、定期的を実施することにより、「吉田のうどん」の認知度を高めるとともに、味、接客態度等のレベルアップに繋がることから、毎年実施していくことが望まれる。

また、県内には、いわゆる「B級グルメ」と呼ばれる安価で郷土色豊かな食が数多く存在する。加えて、「甲府とりもつ煮」のB-1グランプリ獲得以降、県内外で「B級グルメ」への関心も高まっている。こうした「B級グルメ」は、その誕生から普及までストーリーを持ち、「もてなしの心」につながる「郷土を知る」と大きな関連がある。このため、県内各地持ち回りにて、その地域における食をテーマとした定期的なイベントを開催する。

こうした企画は、県民が「郷土を知る」とことについて関心を高めるとともに、県内外の観光客のリピーター化推進に役立つものと想定される。

4. 福祉・健康

観光客に対する「おもてなし」の水準を上げる施策のひとつとして、「温かな心配りによる接待」、「施設の整備等による快適性の確保」が挙げられる。

「やまなし国民文化祭」では、福祉・健康に関わる面から、「癒し」や「健康的な生活」に繋がる事業の実施が望まれる。

(1) 「やまなし国民文化祭」の準備期間中に取り組む事項

① 「心と体の癒しプロジェクト」の実施①

【目的】

心と体の癒しの提供を通じた観光客のリピーター化

【内容】

「やまなし国民文化祭」に訪れる観光客に対して、山梨県の景観や森林に親しみ、温泉に入ることなどを通じて、山梨県の清冽な水と空気を体験していただき、心と体を癒してもらうことは、山梨の魅力を県外の人々に伝えるためには極めて重要なことである。こうした試みを持続することが、山梨観光のファンを増やしていくことに繋がる。特に、いわゆる「女子会」を盛り上げるアクティブな女性に対しては、大きなアピールになるものと想定される。

については、「やまなし国民文化祭」の準備期間中に、山梨県庁内に発足した「女子会推進課」と連携し、「心と体を癒すプロジェクト」に関する組織を全県的に立ち上げ、おもに「やまなし国民文化祭」を訪れる女性観光客をターゲットとして、都会にはない「やすらぎ」を提供することが望まれる。

② フットパス運営ノウハウの蓄積

【目的】

フットパス参加者に対する満足度の向上

【内容】

「やまなし国民文化祭」では、通期事業として、「フットパス『甲斐の小径』」が開催される。ただし、フットパスは注目されるようになってまだ日が浅いため、県民が十分にその内容を理解しているとは言い難い。

については、フットパスに関するセミナー・講習会、イベントなどを通じて、県民へのフットパスの周知、運営ノウハウの蓄積を図ることが望まれる。

(2)「やまなし国民文化祭」の実施期間中に取り組む事項

①「心と体の癒しプロジェクト」の実施②

【目的】

観光客に心と体の癒しの提供

【内容】

「やまなし国民文化祭」の準備期間中に立ち上げた「心と体を癒すプロジェクト」推進組織を中心に、おもに「やまなし国民文化祭」を訪れる女性観光客をターゲットとして、都会にはない「やすらぎ」を提供する。

たとえば、宿泊施設で実施している各種プログラム（例えばキープ協会や増富温泉地域で実施しているセラピー系のプログラムなど）を、「やまなし国民文化祭」参加者に「やまなし国民文化祭」への参加とのセットメニューで提案するなどの取り組みが望まれる。

②「65歳以上限定ダンス大会」イベントの実施

【目的】

高齢者の健康増進

【内容】

「やまなし国民文化祭」応援事業として、高齢者限定のダンス大会を開催することが望まれる。高齢者が健康的に生きがいを持って人生を過ごしていくための機会を提供する。

なお、参加者は県民だけでなく、県外居住者も可能とする。

(3)「やまなし国民文化祭」の開催後に取り組む事項

①フットパス環境の継続的な整備

【目的】

フットパスを通じた健康の推進・産業振興（フットパス立県）

【内容】

「やまなし国民文化祭」を通じて醸成されたフットパスに対する理解・関心を持続させ、健康の増進、産業の振興に繋げる（フットパス立県を目指す）ため、フットパス環境の継続的な整備を行うことが望まれる。

具体的には、歩道の整備やガイドスタッフ・マップの充実などが想定される。また、県内持ち回りによる定期的なフットパス大会の開催も期待される。

5. 教育・文化（県民全般を対象として）

観光客に対する「おもてなし」の水準を上げる施策のひとつとして、「歴史、文化的資産等の保存及び活用」が挙げられる。

「やまなし国民文化祭」では、観光客や県民に山梨の文化・歴史の魅力を十分伝えることができる教育・文化分野の事業の実施が望まれる。

（１）「やまなし国民文化祭」の準備期間中に取り組む事項

①「一日一拾運動」の展開

【目的】

観光客が気持ちよく過ごせる良好な環境づくり

【内容】

観光客から寄せられる批判的な意見として、「トイレが汚い」、「ごみが多い」など環境・衛生面に関する事項が多い。特に、山梨県への主要な玄関口であるＪＲ甲府駅周辺は、関係者の努力にもかかわらず、たばこの吸殻がちらばり、また、観光産業に従事する人たちの喫煙マナーが話題に上るケースもある。「やまなし国民文化祭」を心から楽しんでいただくためには、県民も観光客も気持ちよく過ごせる環境づくりが必要であることから、「清潔感」を感じられるまちづくりに、従来以上に取り組んでいくことが望まれる。

具体的には、一例として、県民一人ひとりが一日一つのゴミ等を拾うことを習慣としてゆく「一日一拾運動」を、行政、企業など県民一体となって展開する。ともすれば、観光施設など人が集まる施設においてのみ実施されがちであるが、これらの集客施設だけでなく、県民の身の回りの生活環境から変えていくことを期待したい。

②「やまなしの歴史・伝統文化を学ぶ」プロジェクトの実施①

【目的】

県民の山梨に対する認知度の向上、観光客の関心の掘り起こし

【内容】

観光客に対する「おもてなしの心」を醸成するためには、「郷土（山梨）を知る」ことが必要である。郷土を知らなければ、観光客に対して山梨の魅力を十分伝えることができない。ついては、主に県民を対象（注）とし、山梨県の歴史を紹介する企画として、『やまなしの歴史・伝統文化を学ぶ』プロジェクトの実施が望まれる。

具体的には、山梨県の歴史・伝統文化を写真等で紹介したり、地名（旧名）を紹介したりする企画展を開催する（例えば、「ここは昔●●があり、●●年までは●●と呼ばれていました」など）。

（注）「やまなし国民文化祭」の準備期間中であり、県民主体の企画とする。なお、本

取り組みは、「やまなし国民文化祭」実施期間中も継続するが、実施期間中は対象層を観光客にも広げていく。

③「やまなし国民文化祭」100日前イベント「風林火山歴史ウォーク」の実施

【目的】

山梨の歴史・文化への理解向上による「やまなし国民文化祭」への再訪促進

【内容】

山梨経済同友会が過去2回開催してきた「風林火山歴史ウォーク」を、山梨県と共催とし、また、大学生に企画から参加していただくことを通じて参加者の増加を図り、数多くの方に山梨の魅力を感じていただくことが望まれる。

「風林火山ウォーク」は、山梨県内では数多くの県民が参加するイベントとして定着しつつあるが、県外居住者の参加はこれからという状況である。このため、「風林火山ウォーク」の運営を山梨県との共催とすることにより情報発信力を強化し、県外居住者の参加をこれまで以上に促す。

また、大学生に「風林火山ウォーク」の企画から運営まで参加いただき、県民により身近なイベントとして感じていただくとともに、若者ならではの斬新な企画案を採用することにより、参加者の増加を目指す。

このように「風林火山ウォーク」の情報発信力を強化し魅力を高めることにより、「やまなし国民文化祭」開催時に山梨への訪問を促すこととする。

(2)「やまなし国民文化祭」の実施期間中に取り組む事項

①「やまなしの歴史・伝統文化を学ぶ」プロジェクトの実施②

【目的】

県民の山梨に対する認知度の向上、観光客の関心の掘り起こし

【内容】

「やまなし国民文化祭」の準備期間中に取り組む『やまなしの歴史・伝統文化を学ぶ』プロジェクトを、「やまなし国民文化祭」の実施期間中は、対象層を観光客に広げて展開していくことが望まれる。

具体的には、山梨県の歴史・伝統文化を写真等で紹介したり、地名（旧名）を紹介したりする企画展について、より観光客が楽しめる形とする。一例として、観光客が参加できるイベントを組み込んだり、宿泊施設とタイアップし郷土料理の提供などを行ったりする。

②「物語性を有する」土産品の販売促進

【目的】

観光消費額の増加

【内容】

山梨県内で発売されている土産品のなかには、コピー商品的な性格を有する物品が存在することは否めないが、山梨県の歴史や風土に裏打ちされた「物語性を有する」土産品も数多く存在する。ただし、これらの「物語性を有する」土産品の商品訴求力は、販売戦略の稚拙さもあり、必ずしも強力とは限らない。

については、こうした「物語性を有する」土産品の販売促進を図るため、土産品販売施設に商品開発に由来する「物語」のパネル等を置き、観光客に山梨に対する理解を深めていただくとともに、商品の販売促進を図る。

(3)「やまなし国民文化祭」の開催後に取り組む事項

①山梨を訪れた第一人者との交流事業の実施

【目的】

文化活動の盛り上がりの継続・更なる活発化

【内容】

「やまなし国民文化祭」では、数多くの文化イベントが開催されるが、予算や人的な制限から、多くのイベントは開催年度単発で終わってしまうと想定される。こうした場合、国民文化祭が目指す「国民（県民）の文化活動への参加の機運を高め、新しい芸術文化の創造を促す」とする目的が、道半ばで頓挫してしまう懸念もある。

については、盛り上がった文化活動に対する機運の継続を図るために、「やまなし国民文化祭」に来県した他県の文化活動の第一人者に対して、「やまなし国民文化祭」終了後も定期的に来県を促し、セミナー・研修などの開催とともに、発表の場の提供が望まれる。

6. 教育・文化（特に子供たちを対象として）

観光客に対する「おもてなし」の水準を上げる施策のひとつとして、「歴史、文化的資産等の保存及び活用」が挙げられることから、前項では教育・文化分野における取り組みを提案した。

ここでは、同分野の取り組みのうち、特に児童・生徒など、未来を背負って立つ若年者たちに関わる事項をまとめた。

(1) 「やまなし国民文化祭」の準備期間中に取り組む事項

① 農業体験プロジェクトの実施①

【目的】

山梨への関心向上による「やまなし国民文化祭」への再訪促進

【内容】

「やまなし国民文化祭」に来県する観光客は、首都圏など都市圏の居住者が中心となると想定される。これら都市圏居住者の多くは、山梨への観光に対して「非日常の生活」を求めており、近年の傾向として「教育効果のある観光」への関心が高まっている。

については、都市圏の子供たちを主な対象として、農業体験の場を提供することが望まれる。具体的には、果樹など山梨県を代表する農産物を題材に、農家の人が農産物をどのように育てていくかを学び、実際に手入れや収穫を実践していただくこととする。こうした取り組みにより山梨に対する関心を高め、「やまなし国民文化祭」への再訪を促していく。

② 「小学5年生参画プロジェクト」の実施①

【目的】

子供たちの「やまなし国民文化祭」への積極的な参加誘導、及び文化・伝統の新しい担い手の育成

【内容】

「やまなし国民文化祭」は、子供たちが地元の文化・伝統に親しむ絶好の機会となる。については、「やまなし国民文化祭」の準備期間、実施期間、終了後を通じて、県内の子供たちが将来の文化・伝統の担い手となるよう、育成事業を展開することが望まれる。

具体的には、まず準備期間の取り組みとして、「やまなし国民文化祭」において自分の住むまちがどんなイベントを開催する予定か、学校単位・学級単位で調査し、なんらかの形で関わりを持つ。実施を予定するイベントが複数ある場合には、どのイベントに関わるかを多数決で決める。関わるイベントが決まったら、準備の段階から主催

者と話し合いをして役割分担を決め、一緒に準備を行う。

なお、本事業の対象は、成長段階を考慮し小学校5年生とするが、他の学年にも積極的な参加を促していく。

③「親子でまち歩き」イベントの開催

【目的】

県民による地域の魅力の再発見

【内容】

住んでいる地域を、県民自身が親子で歩いてみることで、地域の歴史や風景、文化など、今まで見過ごしていた魅力・地域資源を再認識する機会を作ることが望まれる。

具体的には、目で見えるものだけでなく、川のせせらぎに耳を澄ませたり、草木に触れてみたりするなど、五感を活かした「まち歩き」を楽しめるウォーキングイベントを自治体や自治会単位で開催する。

なお、「やまなし国民文化祭」の実施期間中にフットパス事業が予定されており、本取り組みは別途提案している「フットパス運営ノウハウの蓄積」に関わるイベントとの連携も想定する。

(2)「やまなし国民文化祭」の実施期間中に取り組む事項

①農業体験プロジェクトの実施②

【目的】

山梨への関心向上による「やまなし国民文化祭」への再訪促進

【内容】

「やまなし国民文化祭」準備期間中から実施する農業体験のプロジェクトを、「やまなし国民文化祭」実施期間中も継続して取り組むことが望まれる。

なお、「やまなし国民文化祭」実施期間中は、農業体験プロジェクトの写真展や収穫コンテストなど、「やまなし国民文化祭」に連携したプログラムを実施する。

②「小学5年生参画プロジェクト」の実施②

【目的】

子供たちの「やまなし国民文化祭」への積極的な参加誘導、及び文化・伝統の新しい担い手の育成

【内容】

「やまなし国民文化祭」の準備期間、実施期間、終了後を通じて、県内の子供たちが将来の文化・伝統の担い手となるよう展開する育成事業の一環として実施が望まれる。

「やまなし国民文化祭」準備期間中の取り組みに続く実施期間中の取り組みとして、

実際に「やまなし国民文化祭」に参加する。また、参加する学年（主として小学校5年生）以外も見学を行い、「やまなし国民文化祭」に参加しているという疑似体験を経験する。

なお、こうした取り組みは、児童の親の見学を促すことになり、見学者（観客）の増加にも寄与することとなる。

③授業の一環としての「やまなし国民文化祭」見学の実施

【目的】

子供たちの「やまなし国民文化祭」への参加誘導、文化・伝統への関心の向上

【内容】

上記「小学5年生参画事業」とも連携する取り組みであるが、「やまなし国民文化祭」の見学を、遠足や社会見学の一環として義務づけることが望まれる。

④特別プログラム「『山梨の文化』講座」の開講①

【目的】

子供たちの「やまなし国民文化祭」への参加誘導、文化・伝統への関心の向上

【内容】

「やまなし国民文化祭」実施期間中の学校における特別プログラムとして、「山梨の文化」講座を開催することが望まれる。

具体的には、小中学生を対象に、学校の授業の一環として、地域の特徴、歴史、文化、および環境に関する教育等を実施する（毎週1時間程度）。

⑤「子どもシンポジウム」の開催

【目的】

子供たちの「やまなし国民文化祭」への参加誘導、文化・伝統への関心の向上

【内容】

歴史・文化・観光資源など、山梨に関するテーマを決め、子どもたちが討論を行う連続イベント「子どもシンポジウム」を開催する。本シンポジウムは、参加者を入れ替えて複数回実施し、子供たちが地域への関心を高める機会とする。

なお、本シンポジウムは授業の一環として見学することが有効と思われる。また、一般県民や観光客にも公開する。子どもを主役にすることで、保護者や親戚などの「やまなし国民文化祭」への興味・関心の向上にも期待できると思われる。

(3)「やまなし国民文化祭」の開催後に取り組む事項

①「小学5年生参画プロジェクト」の実施③

【目的】

文化・伝統の新しい担い手の育成

【内容】

子供たちに、「やまなし国民文化祭」で印象に残ったシーンの絵画や、出来事の感想文を募集する。優秀な作品やユニークな作品は、知事賞などの形で表彰する。

「やまなし国民文化祭」の準備期間、実施期間、終了後を通じて、県内の子供たちが将来の文化・伝統の担い手となるよう展開する育成事業の締めくくりイベントとして実施が望まれる。

②特別プログラム「『山梨の文化』講座」の開講②

【目的】

子供たちの「やまなし国民文化祭」への参加誘導、文化・伝統への関心の向上

【内容】

「やまなし国民文化祭」実施期間中に開催する「山梨の文化」講座を、「やまなし国民文化祭」の開催後にも継続することが望まれる。

③地元行事への学校を通じた参加促進

【目的】

子供たちの文化・伝統への関心の継続

【内容】

「やまなし国民文化祭」では、児童・生徒が地元の文化・伝統に親しむ機会を得ることになる。しかし、「やまなし国民文化祭」が終了すると、地元の文化・伝統への関心が薄れてきてしまう懸念がある。

ついては、地域社会とのつながりを深めるためにも、学校を通じて、児童・生徒を地元の文化・伝統行事へ積極的に参加させることが望まれる。

7. ふれあい・発信

観光客に対する「おもてなし」の水準を上げる施策のひとつとして、「温かな心配りによる接待」が挙げられる。

「やまなし国民文化祭」では、全ての県民が、「おもてなし」の主体であることを自覚するとともに、「ふれあい」を通じた観光客に対する好感度向上を目指して関連事業に参加していくことが望まれる。

また、「やまなし国民文化祭」での取り組みを、県民や観光客に適切に伝えることも「おもてなし」である。多様な媒体、機会を通じて十分な情報伝達が望まれる。

(1)「やまなし国民文化祭」の準備期間中に取り組む事項

①「ふれあい好感度ナンバーワンプロジェクト」の展開①

【目的】

観光客に対する好感度の向上

【内容】

観光客の山梨県民に対する好感度を向上させ、全国一の好感度を目指すプロジェクトを展開することが望まれる。

具体的には、人と人がすれ違う時、笑顔で挨拶したり、困っている人を見かけた時、気軽に声をかけたりすることを励行する運動を、職場や学校単位で実施する。

また、「笑顔キャンペーン」と銘打ち、県民が笑顔で観光客を迎えるため、学校・職場に「笑顔キャンペーン」のポスターを貼る。

このほか、「やさしく走る甲州路」のキャッチフレーズの下、運転マナー向上キャンペーンを実施する。具体的には、同キャッチフレーズのステッカーを賛同者に配付し、自家用車、営業車に限らず、自動車に貼付する。また、「黄色信号では停車する」、「トンネルではライトをつける」、「無用な割り込みはしない」など、人に優しい運転の啓発を図る。

なお、本プロジェクトは、「やまなし国民文化祭」準備期間中のみならず、「やまなし国民文化祭」実施期間中や終了後も継続して行う。

②おもてなしガイドの養成

【目的】

観光客の満足度の向上

【内容】

「やまなし国民文化祭」に訪れる観光客は、山梨の観光資源や文化などについて十分な知識を有しているとは限らない。むしろ有していない人が大半と想定されるが、こうした人たちに「山梨ファン」となってもらい、頻繁に山梨を訪れていただくた

めには、観光資源や文化について説明できる人材を育成する必要がある。

については、年間通して実施される「やまなし国民文化祭」の内容については当然ながら、山梨の観光資源やイベント、歴史、文化などのストーリーを説明できるガイドを、十分な人数養成・育成することが望まれる。

③民間事業所における「やまなし国民文化祭」のPRの実施①

【目的】

「やまなし国民文化祭」に対する県民の関心の向上と県外での認知度の向上

【内容】

県民の一員である県内各民間事業所が、「やまなし国民文化祭」のPRに主体的に取り組むことが望まれる。

具体的には、各事業所がポスターを貼ったり、マスコットキャラクター「カルチャー君」を名刺に印刷したりすることが想定される。また、各事業所のホームページに、「やまなし国民文化祭」のバナー広告の掲示やホームページのリンクを設定する。

なお、本取り組みは、「やまなし国民文化祭」準備期間中のみならず、「やまなし国民文化祭」実施期間中も継続して行う。

④「やまなし国民文化祭」PRモニュメントの建設

【目的】

「やまなし国民文化祭」に対する県民の関心の向上

【内容】

「やまなし国民文化祭」のPRはさまざまなチャネルを通じて行われているが、県民の関心をさらに向上させるため、県民総参加を呼びかける内容のモニュメントを、甲府バイパスに建設することが望まれる。

※「やまなし国民文化祭」終了後は、取り壊すこととする。

(2)「やまなし国民文化祭」の実施期間中に取り組む事項

①「ふれあい高感度ナンバーワンプロジェクト」の展開②

【目的】

観光客に対する好感度の向上

【内容】

「やまなし国民文化祭」の準備期間中から取り組む「ふれあい高感度ナンバーワンプロジェクト」を、「やまなし国民文化祭」の実施期間中にも継続することが望まれる。

なお、「やまなし国民文化祭」の実施期間中は、観光客に対してアンケートを実施し、「やまなし国民文化祭」終了後の運動の継続の参考とする。

②民間事業所における「やまなし国民文化祭」のPRの実施②

【目的】

「やまなし国民文化祭」に対する県民の関心の向上と県外での認知度の向上

【内容】

「やまなし国民文化祭」の準備期間中から取り組む「民間事業所における『やまなし国民文化祭』のPR」を、「やまなし国民文化祭」の実施期間中にも継続することが望まれる。

③「やまなし大使」の山梨県への訪問

【目的】

「やまなし大使」の活用と山梨県内外への情報発信

【内容】

山梨県が委嘱している「やまなし大使」の皆さんに、「やまなし国民文化祭」の開催を機に来県していただき、「やまなし大使」として、山梨県内外への発信をお願いする。

(3)「やまなし国民文化祭」の開催後に取り組む事項

①「ふれあい高感度ナンバーワンプロジェクト」の展開③

【目的】

観光客に対する好感度の向上

【内容】

「やまなし国民文化祭」の準備期間中から取り組む「ふれあい高感度ナンバーワンプロジェクト」を、「やまなし国民文化祭」の終了後にも継続することが望まれる。

おわりに

「やまなし国民文化祭」は、山梨県民が一体となって取り組み、成功に導くイベントです。そのためには、行政、個人、事業者がそれぞれの立場で、「やまなし国民文化祭」を成功させるために何ができるか考えることが重要です。私たち経済同友会は、事業を営む経営者の立場として、「やまなし国民文化祭」の実施事業に積極的に参加してまいります。

また、「やまなし国民文化祭」は、県民が地元の文化・伝統を通じて山梨の良さを再発見する絶好の機会であります。ただし、一過性のイベントであれば、県民の関心は次第に薄れてしまいます。従来から開催されている「やまなし県民文化祭」の拡充などを通じて、県民の文化・伝統に対する理解の水準を継続的に上げていくことが望まれます。

本提言に盛り込んだ事業の提案が、「やまなし国民文化祭」の成功に資することを期待したいと思います。

おもてなし部会
部会長 降矢英文

【山梨リニューアル委員会おもてなし部会】

有井 昇	岡島	中込まさ彥	ダイタ
飯島禎典	湊與	野口英一	山田YBSグループ
生熊敏弘	ニュー芙蓉	蓮見昌孝	三菱UFJ銀行 ソフトバンク証券
石井敏雄	日本政策金融公庫甲府支店	早野正泰	早野組
伊藤不二夫	山梨トヨタ自動車	藤田和徳	セコム山梨
入倉 要	イリックス	藤田義治	山形一級建築事務所
上村和則	東海東京証券	藤巻孝弘	日本連合警備
内田賢一	山交百貨店	二村英之	大和証券
遠藤 孝	昌電社	降矢英文	山梨中銀コンサルティング
大橋正嗣	損害保険ジャパン	古屋俊仁	古屋法律会計事務所
小野堅太郎	山梨中央銀行	保田井 建	日本経済新聞社
小野 勝	東京電力	堀内 徹	平和アール・イー・シー
風間純哉	風間建設	堀込 丹	くろがねや
桐原正仁	NPO法人フィジカルアカデミー	松崎聖志	富国生命保険
窪田 勲	山梨フードサービス	松本順丈	日本銀行
小池雅彦	富士屋ホテル	三澤茂計	中央葡萄酒
小林 久	やまと	望月昭人	みずほ銀行
小林文三	NSS	望月操三	
小林義雄	ベストライフ	望月英雄	サンキョー
志村和也	富士観光開発	望月政男	ラッキー商会
新家正彦	ティ-エムディベロップメント	谷田貝憲一	みずほ証券
杉山達好	総合警備保障	横山 圭	横山生コン
鈴木吉幸	SMBC日興証券	吉崎 健	NTTドコモ
高野三雄	山梨交通	渡辺栄一	モード女学院
田嶋義明	東京ガス山梨	渡辺 努	富士情報
田辺建男	日本コムシス	深沢文雄	山梨経済同友会事務局

(順不同)

山梨のおもてなしの向上を目指して
 ～「富士の国やまなし国民文化祭」への提言～
 報 告 書

平成24年7月

山梨経済同友会

山梨リニューアル委員会	委員長	小池雅彦 (富士屋ホテル)
同	幹事	田嶋義明 (東京ガス山梨)
同	おもてなし部会 部会長	降矢英文 (山梨中銀経営コンサルティング)
同	おもてなし部会 事務局	村田俊也 (山梨中銀経営コンサルティング)